

| | |
|---------|---|
| 日 時 | 令和8年1月15日(木) 10:00~10:30 第4回経営会議 |
| 出席者 | 平原副市長、伊地知副市長、佐藤副市長、鈴木副市長、技監、政策経営局長、総務局長、財政局長、脱炭素・GREEN×EXPO推進局長、市民局長、港南区長 |
| 欠席者 | なし |
| 議 題 | 1 資源選別施設の再整備について【資源循環局】 |
| 議 事 要 旨 | <p>【論点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶴見資源化センターの再整備における事業手法は民設民営方式とする。 <p>【説明要旨】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選別施設の事業手法については、公民グループ対話、PFI等導入可能性調査、横浜市・提案事業者・有識者による対話等を通じ、BOT方式、BOO方式、民設民営方式の3方式で比較した。 ・「コスト削減」「施設の維持管理・運営の効率化」「事業安定性、リスクへの対処」「事業期間終了後の継続性」の4つの視点での定性評価、VFM評価による定量評価から、最も優位である民設民営方式を事業手法とする。 ・民設民営方式による収益事業の実現性、経営リスク、事業期間終了後の施設の扱いといった課題については、公募書類に収益事業、リスク対策や事業期間終了後の施設の扱いを明記させ、評価項目および配点を適切に設定した内容を附属機関に諮り、事業安定性と継続性を確保する事業者を選定する。 <p>【主な意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民設民営で事業を行うにあたっては、民間事業の資金面のリスクについて、留意が必要。 ・資料にある「民設民営方式における課題」については、事業期間中も含めたモニタリングにより、想定どおりの結果が出されているか、慎重にチェックをしていくこと。 <p>【結論】</p> <p><u>主な意見を踏まえつつ、局案について了承。</u></p> |